

## ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第5回

聞き手：池田みどり

ジャムズネット東京は、医師だけではなく、患者側の立場の方々にも、同じ目線をもって活動をお願いしています。今回は「医療を支える関西オカンの会」を設立なさった、フリーランスアナウンサー 関根友実さんにお話を伺いました。

### ■ 関根友実さん



朝日放送株式会社アナウンス部を経て、フリーランスとして、「おはようコールABC」、「ムーブ！」の司会を担当。現在はラジオ番組にレギュラー出演。

2009年3月、数々のアレルギー疾患の闘病を綴った「アレルギー・マーチと向き合って」を出版。

2009年5月、医療支援ボランティア団体「医療を支える関西オカンの会・・・時々、オトン」を設立。

2009年11月、尼崎にて、兵庫県立柏原病院小児科を守る会と共に「患者力」をテーマにシンポジウムを開催。

ホームページ：[医療を支える関西オカンの会・・・時々、オトン](#)

・ご自身の半生をつづった著書「アレルギー・マーチと向き合って」を読ませていただきました。まず、「アレルギー・マーチ」という言葉についてご説明いただけますか？

小児アレルギーの権威・馬場実医師が提唱した言葉なのですが、まるで行進(マーチ)をするように、体のいろんな場所に、形を変えてアレルギーが発症することを言います。

私の場合は、満一歳でアトピー性皮膚炎、思春期の頃にアレルギー性鼻炎、二十歳のころにアトピー白内障、25歳で成人性気管支ぜんそくが発症し、現在は様々な食物アレルギーで、蕁麻疹や咽頭浮腫などのショック症状に悩まされています。

**・アナウンサーになるまでの、病気の経緯を教えてください。**

アトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎は慢性化していたのですが、突然降ってわいたように白内障の診断を受けました。一気に水晶体の白濁が進んでしまったようで、緊急手術を勧められました。でも、この病気がなかったら、アナウンサーは目指していなかったかもしれません。

アナウンサーを志したきっかけは、アトピー白内障の手術をするために、一週間ほど入院をしたときに視覚障害の方と出会い、ボランティアで視覚障害の方の運動会の伴走をしたとき、「温かい声をしていますね。励まされました」と声をほめられたことです。肉声で思いが伝わることに感動して、音声表現の道に進む思いを固めました。

**・アナウンサーとしてはどのようなお仕事をされましたか？**

芸人さんと一緒にトーク番組をしたり、生中継で商店街やレジャー施設に行ってレポートしたり、スタジオでニュースを読んだり・・・いろいろな仕事に挑戦させていただきました。局のアナウンサーとして働いていたのは5年間なのですが、入社二年目の時に高校野球の実況中継を女性で初めて経験させていただきました。

**・お子さんを作るには大きなリスクがあったと思いますが、それでも踏み切られましたね**

子供を産まない選択肢は私にはありませんでした。医師から、子供か仕事かという二者択一を迫られた時も、迷いはありませんでした。ただ、大好きな仕事だったので、自分に果たして仕事が辞められるだろうかと思いました。結局一年、悩んだ末で決断しました。幸運にも一人、娘が授かり、あの時に決断しておいて良かったと心から思います。

**・フリーランスとしてアナウンサーに復帰されるきっかけと、その後の仕事内容について教えてください**

大好きな仕事を辞めて、子供を産む選択をしましたので、後ろを振り返りたくはないと思っていました。だから、私の中では、復職はタブーになっていました。でも、産まれた子供の性が女の子であったこともあり、大好きな仕事に打ち込んでいる姿を見せたくくなりました。どこかで、仕事を諦めて 出産をしたことを娘に気付かれてしまうことが怖かったのかもしれませんが、何かを選ぶことは何かを諦めることだと、潔くありたいと思っていたのですが、子供を産んで人生観が変わり、生きるということは諦めないということだと考えを改めました。

復帰してから最初の一年間は、週に2から3日働きました。翌年からは、午前5時からの

番組を月曜から金曜まで担当することになったので、毎朝午前二時に起きていました。子供が寝る間に働きました。

**・この本を出版しようと思われたのは、どうしてですか？**

昨年の三月まで担当していた「ムーブ！」という夕方の報道情報番組が終了すると聞いたときに、頭の中にどうしてもやっておきたいこととして浮かびました。この番組は飾らない言葉で、正直に意見をぶつけ合う、自由闊達な言論番組でしたので、私もありのままの言葉で自分の病気のことを綴ってみたくなりました。アレルギーという病気は、ガンや心臓病など重篤な病気とは違い多くが軽症で、今では三人に一人は何らかのアレルギー疾患を持つというほどの国民病になりつつあります。でも、中には、気管支喘息の発作やアナフィラキシーショックで亡くなったり、アレルギーが原因で心を病み、自死を選ぶ人もいます。私自身、何度か死を意識した大発作を起こしていますので、病気のことを克明に記すことで、同じ病気と闘っている人に、少しでも情報として伝わればいいなという思いもありました。

**・医療支援ボランティア団体「医療を支える関西オカンの会・・・時々、オトン」を設立されました。この会の趣旨を教えてください**

昨年の五月に発足された医療支援ボランティアの会です。私自身が長く、いろんな科の患者であったことと、娘を持つ母親として、小児科や産科や急性期医療の崩壊は、まさに当事者の危機であると思いました。また、医療にまつわるニュースを伝えてきた伝え手でもありましたので、今、現場はどうなっているのか、患者や医療者の思いの深い部分を伝えあうことで、信頼関係の構築の一助になればとの思いがあります。趣旨としては、医療者と患者を繋ぐ橋渡しのような活動をしたいということです。

**・どのような方々が参加しているのか、また、活動内容を教えてください**

普通のお母さんをはじめとして、医師、薬剤師、歯科医師、理学療法士、看護師、介護関係者、がん患者、SMA患者、アレルギー患者、行政関係者、メディア関係者、など、様々です。活動内容は、医療現場や難病患者への取材、情報の発信、それから会員相互の情報交換、メールマガジンで医療情報を配信、医療シンポジウムの開催、などです。

## ・これからの活動について教えてください

ボランティアは、社会にとって必要であると思うことを、信念を持って取り組むことであると思っています。自分にできることを少しずつ、重ねていきたいと思っています。会員の皆さんには、一緒に楽しんで活動をしていただきたいと思います。医療現場や患者さんに会いに行き、じっくりとお話を聞いて多くの人に伝えていく、活動の基本はそこだと思います。時折、大きなシンポジウムを開催して、メッセージを伝えていければと思います。

## ・ジャムズネット東京に期待すること

とても素晴らしいネットワークだと思います。

日本人の医療支援のネットワークがニューヨークで生まれて、いろいろな国で生まれて、とうとう東京に上陸したというストーリーも興味深いです。

各国の医療事情や、他国と日本の医療や看護の比較など、ジャムズネットのネットワークの広さは、日本国内の現在の医療事情を考える上で非常に有効な情報資源になると思います。

医療事情が国によって違うのと同様に、今は日本国内でも地域によって様々な事情があります。

東京だけでなく、全国的に網を広げて、いろいろなネットワークを包括するような会に発展していただきたいと思います。